

神楽名

お がり 尾狩神楽

伝承地

尾狩地区
高千穂町大字向山

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

尾狩神楽保存会
代表 甲斐 範一



岩戸手力男

◆ 神楽の概要・由来・その他

尾狩神楽が行われる向山地区尾狩は、^{おみね}尾峰・^{かりぞこ}狩底という二つの小集落で構成された、世帯数11戸の集落である。鎮守社である^{やまなか}山中神社は江戸後期の建立であり、川を隔てた対岸の^{おとめ}日之影町乙女・^{そう}草^{ふつ}集落を含む4集落16世帯の里人が氏子となっている。山中神社の祭神は、^{やまなかぼう}山中坊という^{しゅげんじゃ}修験者が人神として祀られている。伝えでは、山中坊は隣村の秋元集落から狩底の観音堂に移り住んだが、やがて重い病気にかかり、4集落の里人が交互に飲食を運び、死水をとって往生させたという。山伏は「この集落の人々の親切は忘れない。死後、吾を祀ったら、疫病の流行から必ず私が護り、法力を以って末永く村を守るので、観音堂より床を低くして祀るが良い。参拝は観音様をまず拝すること。」と臨終のことばを残したという。山中様として祭祀されている石像には、台座に天保14年(1843)卯八月と刻してある。

^{そとじ め のぼり}外注連の^{にってんまる}幟に、^{げってんまる}日天丸、^{まるしてん}月天丸、^{え もの}丸四天の文言、彫り物に^{え もの}仏教伝来とともに伝えられた陰陽五行を中心とした切り絵が飾られ、至る所に修験の名残をとどめている。

◆ 芸能の機会・場所

- 尾狩夜神楽... 1月の第3土、日曜日、観音堂にて神事後、神楽宿にて奉納

◆ 演目一覧

宮神楽・神事

とうせい

^{かみおろし}神降

^{だいじん}大神(前半)

^{いわくぐ}岩潜り(前半)

五っ天皇(後半)

^{し め ぐ ち}注連口

戸取り

道神楽

^{ちんじゆ}鎮守

^{じがため}地固(前半)

田植神楽

座張り

^{ぶ ち}武智の舞

伊勢

^{たちからお}手力男

^{しょうぎょう}森の唱教

^{すぎのぼり}杉登(前半)

^{こうじん}荒神

^{きねまい}杵舞

岩潜り(後半)

山森

^{たちからお}岩戸手力男

日の前

彦舞

山中神社

地固(後半)

^{みのまい}箕舞

五っ天皇(前半)

弓正護

^{うずめ}鈿女

線下し

^{みこや}御小屋の舞

杉登(後半)

住吉

大神(後半)

^{やつばち}八鉢

^{おきえ}沖逢

柴引き

雲下し

※平成27年1月の神楽奉納番付に基づく

◆ 演目の特徴

神社での神事後、「綾」と呼ばれる白布で神の道を祓い清め、猿田彦、山中様を本殿から導き出す「綾祓い」が行われる。綾で頭を撫でられると健康に過ごせると云う。尾狩神楽は黒仁田神楽と共に、日之影町岩井川系の神楽で、暴れ神楽といわれる「座張り」や祇園信仰の「五っ天皇」の番付の他、平地の農神楽である「田植神楽」が組み込まれている。「田植神楽」は他地区の「御神体」に相当する神楽で、高千穂では尾狩・黒仁田集落だけに伝承されており「鍬入れ」「牛の鋤入れ」「早乙女」「杵舞」「箕舞」で構成されている。岩戸五番の「舞開き」に当たる「日の前」は、「ひよこ舞」とも呼ばれ、手力男神が天岩屋戸から幼児が扮した天照大神を連れ出し手を引きながら神庭を廻り、列座した祝子者が祝歌を唱える。

◆ その他の特徴

- 面... 猿田彦、山中様、入鬼神、八鉢、鈿女、素戔鳴尊（柴引き、戸取り、山神）、天照大神 等
- 楽... 締太鼓、鈺、笛、楽板
- 装束... 白衣、白袴、青袴、素襖、千早、着物、毛笠、烏帽子、襷、鉢巻 等
- 採り物... 鈴、榊、舞扇、御幣、弓、矢、刀、銃、赤襷、面棒、箕、鋤、鍬 等
- 文書... 「神楽読本」「尾狩神楽読本」「山中神社夜神楽祭場番付表」等

◆ 伝承の現状・課題

神楽伝承者は15名で、氏子数がすくないため、舞手も準備から賄いまでの全てに従事している。夜神楽の時は町外に出ている子供も帰省し舞う。親子三代で舞う家もある。代々世襲制であったが、若い世代は町外に出てしまい、後継者不足が心配である。



山中様



田植神楽（鍬入れ）



日の前